

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熟

7月1日、「滝さん」参りはきつかり午前7時から始まった。写真家の車に乗せてもらひ、県北東端の桃香野(奈良市)に着いたのは6時半少し前だった。

ちょうど龍王橋から滝谷川の上流に向かう浄衣に黒の紋付姿の人を見つけて、早速後に付いて行つた。橋のたもとに善女龍王と文字を刻んだ大きな石灯籠が建つてゐる。山肌の細道をたどると水音を立てて流れ落ちる龍王の滝があつた。滝つぼには流木が一本落ち込んでいる。事前に用意した注連縄の幣も大雨で落ちたといふ。周囲の石も木々もしつとりと濡

れ、ひんやりとした空気が清々しい。

紋付姿の3人は氏子総代で、川中に供物の台を設置し、手際よく祭りの準備を進めるうちに、次々と人が集まってきた。輪袈裟を着けた檀家総代3人、袴の両袖を裁ち落としたような上衣を着けた長老のオトナ衆(14人のうち9人が参加)、さらに小学生も神妙に様子を見守っている。

修祓・献饌・祝詞奏上  
・玉串奉奠・撒饌と祭り  
は15分ほどで終わった。



年に1度「滝さん」を祀(まつ)る桃香野の人々

—筆者提供

## 雨を求める滝参り

昔は、この龍王の滝には女性は参れず、男も参るたといふ。かつてはお坊

県内には各地で龍神信仰が見られるが、田原本町の樂田寺には室町期の作とされる善女龍王の画幅が伝わる。雨乞いの時

さんが法螺貝を吹き、神主も参つていたというから、龍王祭は神仏合同で行われる大切な行事だつたことが分かる。干ばつの時には雨乞いの願を掛け、祠を倒すと効き目があるとか、滝替えをして祈願し、その後に女性のお腰(腰巻)を洗つたり、木石などを放り込むと大雨が降るといわれた。

松明をたいてヒシリ(火振り)をして近くの十三塚を一周し、松明を池に投げ込んだという。わざと動物の死骸を龍王の池に投げ込んで、水を司る龍神を怒らせて、その力の発動によつて、求める雨を得ようとする所もあった。手荒に扱い、汚して益を得る方法もあつたのだ。

表

(奈良民俗文化研究所代)